

## 令和6年度県立特別支援学校チャレンジ2024実施計画書

1	事業名称	森林（もり）のコミスク推進事業（二年度）
2	学校の現状と課題	(1)現状 ・R5申請の事業として、学校運営協議会委員と連携し、計7つの自然体験活動を実施 ・自然体験活動を教科学習に関連付け、PDCAで授業を实践する教員の知見と意識の向上 ・児童生徒の自己評価、保護者による評価、教員の自己評価で成果を裏付ける数値推移 (2)課題 ・教員の授業構想力の向上、及び教育課程の改善（自然体験活動と効果的に関連付き、全ての子どもにとって学びやすい個別最適な教育実践のための教育課程に改善する。）
3	事業目標	地域資源を生かした自然体験活動を学部コアに設定し、教科指導との効果的な関連付けを図るため、学校・学部・学年グループ等で単元配列表（教科関連図）を作成しPDCAサイクルを实践する。所属等を超え、全教員が学部コアや行事等と教科指導が相互に関連付いた授業実践をし、全ての授業が学びのまとまりをもって行われている学校の姿を目指し、以下3点で目標を設定する。 (1)小中学部で各季節の自然財の特色を生かした体験活動を年間4回、計8回実施する。 (2)自然体験活動と関連付け、子どもが学びやすく系統的発展的な教育課程を編成する。 (3)児童生徒、学校経営の両評価で、R5値を1としR6を1.5まで向上させる。
4	事業内容	(1)学部コアの設定 各学部が通年で、学校運営協議会や外部人材と連携して継続でき、教科等横断的に実施しやすい自然体験活動を学部コアとして設定する。 ○小学部・・・「森林（もり）のがっこう」 近隣のキャンプ場や農家等と連携し、春夏秋冬の動植物や久慈川を題材に、主に生活科の抑えて、他教科とも効果的に関連付けた授業構想を図る。 ○中学部・・・「日本一の楮（こうぞ）塾」 美濃和紙の日本一品質を100%支える大子楮に特化し、職業・家庭の抑えて、栽培・収穫・製品化一連の行程に取り組む。特に秋の作業は、人的環境的制限がある山間部での実施を要するため、地元職人宅での民泊を同時に行い、実際生活の体験をとおして自然財と地域生活の一体的な理解を図ることで地域と学校の共通課題解決に向けた取り組みの一助とする。 (2)教育課程内の位置づけ ○小学部・・・生活（年間4回の自然体験活動） 特別活動（事前事後学習、及びキャリアパスポート作成） 主に関連付ける教科等（国語、算数、図工、体育、道徳） ○中学部・・・職業・家庭（楮の加工に係る活動を年間継続） 総合的な学習（実地体験の事前事後学習「大子をしろろ・まなぼう」） 特別活動（キャリアパスポート作成） 主に関連付ける教科等（国語、社会、数学、理科、美術、道徳）
5	評価方法	1 児童生徒の評価（3規準×4基準） (1)規準・・・GDの目指す子ども像の3観点（得意・柔軟・粘り強さ） (2)基準・・・規準の達成状況を4段階で設定し数値化（1点～4点） (3)方法・・・児童生徒の自己評価（体験後実施、キャリアパスポートに蓄積し個人内評価） 保護者による評価（前後期実施、自分の子供の能力伸長を観点別に数値評価） 2 学校経営の評価（学校経営計画に基づく5段階評価） 学校運営協議会委員、保護者による外部評価、教員による自己評価
6	事業費	* 千円
7	広報手段	ア 学校のWebページ（必須）
		イ 学校のWebページ以外の広報手段 NHK水戸、各種新聞、大子町広報誌、FMだいが、県教委フォトニュース、学校だより配布 ※冊子等の印刷物等、具体的に記入すること。
8	運営組織 ①名称	もりのこプロジェクト推進委員会（令和6年度学校運営協議会と連携）
	②構成員の人数	8人：校長、教頭、○教務主任、小学部主事、中学部主事、地域連携係長、ICT教育係長、事務担当者（校長、事務担当者以外は、令和6年度学校運営協議会作業部会を兼ねる）